和歌山大学大学院

教育学研究科教職開発専攻

（教職大学院）

学校教育の未来を担うリーダーを養成します！

教職大学院の開設にあたって

専攻長からのメッセージ

添田久美子

本学では、これまでも「初任者研修高度化モデル事業」などを通して、現職教員の資質能力の向上・高度化を支援してきました。平成28年4月に開設した教職大学院では、こうしたこれまでの先行事業の成果を活かし、教師の学び続ける意欲を高め、学校現場を支援する学習を提供していきます。本学では特に、学校・教師・地域と共に、複式学級などを有する小規模校活性化支援、基礎学力の向上、社会性や自律性などの市民性の育成といった地域課題に正面から取り組むことで和歌山の教育に貢献したいと考えています。

教育理念・目的

和歌山大学は、和歌山大学学則第１条「目的及び使命」に則り、和歌山県唯一の国立総合大学として**「地域を支え、地域に支えられる大学」**であるとともに、持続可能な社会の実現に寄与することを宣言しています。こうした和歌山大学の目的に基づき、これまで教育学部・教育学研究科（修士課程）では、教員養成から現職研修、ならびに県・市教育委員会と協働による「ジョイント・カレッジ」、「初任者研修高度化モデル事業」等の取り組みを実施してきました。

これらの成果を踏まえ、**「教師の生涯を支援する」という教育学部のモットー**を土台とし、「和歌山大学大学院教育学研究科教職開発専攻（教職大学院）」では、県・市教育委員会と協働し、地域の学校現場との密接な関係の上に立って、キャリア全体を通して大学と学校現場を常に往還しながら学び続け、学校を「新たな学びの世界」として創造することができる教師を養成することを目指します。

そのため、これまでの教員養成・現職研修・上述のような事業等の成果を踏まえ、教職大学院では、新しいシステムとカリキュラムを構築し、その指導に適したスタッフを新たに迎え、高い資質・能力と実践力を備えた教員を養成し、地域で育ち地域を支える人材となることでこれからの和歌山県の教育に貢献していきたいと考えています。

めざす人材養成

教師の多様なキャリアパスに応じた教育の提供を明確にするため、教職大学院には以下の2コースを設置しています。

	入学定員	対象	内容
学校改善マネジメントコース	10名	現職教員等勤務経験10年程度	これまでの経験を学校経営という観点から整理・意味づけを行い、専門的知見に基づく高度の実践的指導力を習得したミドル・リーダーの養成を目指します。
授業実践力向上コース	5名	学部卒業生等 一種免許状取得者	学部からの進学者など主として教職経験がない、あるいは浅い者を対象とし、学部での学習を土台として、子ども理解と確かな知識に根ざし、子どもや学校・地域の実態に応じた授業を計画・展開できる確かな授業力をもった教師の育成を目指します。

教育長からのメッセージ

和歌山県教育委員会　教育長
宮下 和己 様

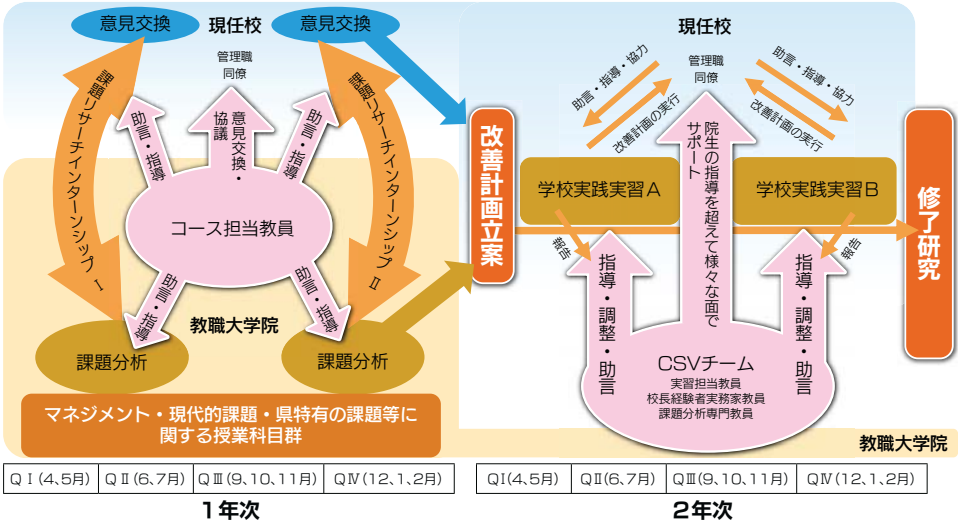
教員の世代交代が急速に進む本県において、高い力量を持った教員、とりわけミドルクラスの教員の高度化を進めることは急務となっています。教員研修の基本は、学校での実務の中にありますが、多くの方々と学ぶ大学での研修もまた、教員の成長のために価値があります。この度、開設された和歌山大学教職大学院が、実践的な教師力向上のための学び舎となり、設立目的にある「地域の強みを活かした学校づくりに寄与する教員」の育成に取り組まれることは、本県教育の充実発展のためにも大変意義深いことだと考えます。是非とも、理論に傾斜することなく、理論と実践を往還させ、授業づくりや学校経営など、教育に対する省察力を育てていただきたいと思います。そして、「自分が未熟である」という謙虚さをいつまでも忘れることなく、子供と真剣に向き合う「教師」をめざすとともに、地域に根差した元気のある学校創りに取り組む教員をより多く輩出いただくことを強く期待しています。

和歌山市教育委員会　教育長
原 一起 様

大学に開設された教職大学院には、本市の学校現場からも、今後、学校運営の中核を担っていただきたい将来有望な教員が進学しています。教職大学院で専門的な知識とスキルを身につけた教員が学校現場に戻り、学んだことを他の教員に広めることによって、よりよい学校運営が促進されることを期待しているところです。また、全国初となる教職大学院教員の指導による初任者研修プログラムでは、本市に勤務する十名の新規採用教員が大学院で学びながら教員生活をスタートさせています。初任者研修を大学院で履修することで専修免許を取得できるこの制度は、新規採用教員にとって魅力的であることはもちろんですが、大学院生を交えた校内カンファレンスの実施により、新規採用教員の資質向上に大きな成果をもたらすものと期待しています。様々な問題を抱える学校現場で中心となって活躍できる教員育成のため、今後も和歌山大学との連携を密にしていきたいと考えています。

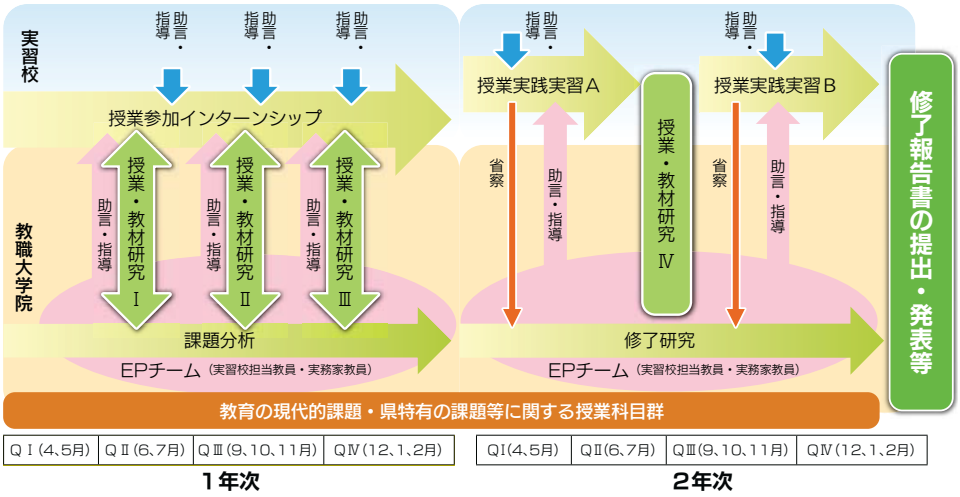
各コースの指導体制

学校改善マネジメントコース



QⅠ(4、5月)	QⅡ(6、7月)	QⅢ(9、10、11月)	QⅣ(12、1、2月)	QⅠ(4、5月)	QⅡ(6、7月)	QⅢ(9、10、11月)	QⅣ(12、1、2月)
1年次				2年次			

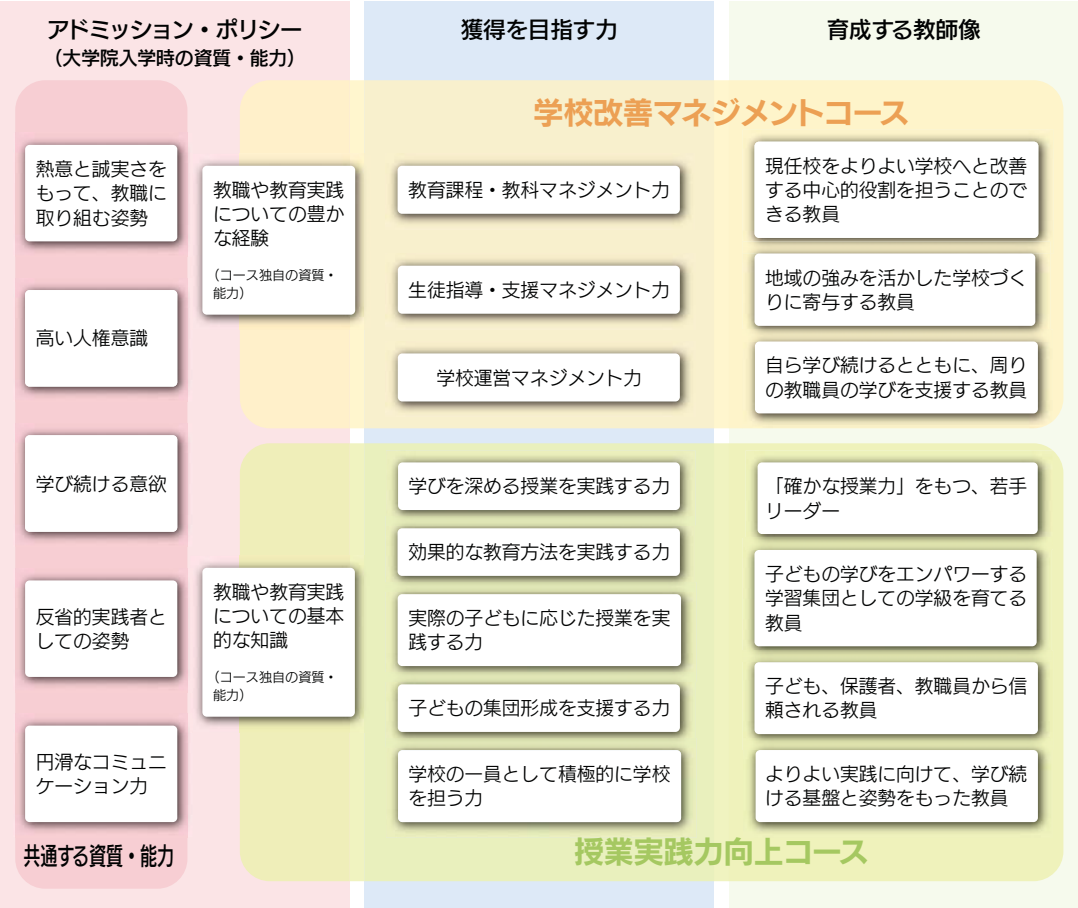
授業実践力向上コース



QⅠ(4、5月)	QⅡ(6、7月)	QⅢ(9、10、11月)	QⅣ(12、1、2月)	QⅠ(4、5月)	QⅡ(6、7月)	QⅢ(9、10、11月)	QⅣ(12、1、2月)
1年次				2年次			

目指す教師像と科目一覧

アドミッション・ポリシーと目指す教師像



科目一覧

		開講科目名	担当者
専攻共通科目	専攻共通基礎科目	教育課程における今日的課題	藤本禎男、二宮衆一、菅道子、木村憲喜、尾上利美
		教材研究における今日的課題	岡崎裕、須佐宏、藤本禎男、木村憲喜
		生徒指導と体制	谷尻治、衣斐哲臣、中山眞弘
		和歌山における家庭・地域と連携した学校づくり	越野章史、西浦民子
		学校と教師	添田久美子、細田能成
	専攻共通深化科目	学習過程と評価	谷口知美、藤本禎男
		能動的学習の実践的研究	岡崎裕、中山眞弘
		ＩＣＴ活用と指導技術	豊田充崇、須佐宏
		基礎基本学習指導方法	深澤英雄、林　修
		道徳教育（小）	杉中康平、坂本善光
		道徳教育（中）	杉中康平、坂本善光
		特別活動（小）	藤原靖浩、川端良幸
		特別活動（中高）	藤原靖浩、川端良幸
		特別支援教育と体制	武田鉄郎、江田裕介、山﨑由可里、古井克憲
		子どもの権利	中山眞弘

		開講科目名	担当者
学校改善マネジメントコース	コース専門科目	教育課程編成の理論と実践	二宮衆一、藤本禎男
		問題行動と保護者との連携	衣斐哲臣、谷尻治、武田鉄郎
		学校と法	添田久美子、坂本善光
		小規模校支援	豊田充崇、西浦民子
		学校安全と危機管理	添田久美子、西浦民子、中山眞弘
	テーマ実践研究科目	教育課程マネジメントとカリキュラム開発	岡崎裕、藤本禎男
		授業研究の理論と実践	二宮衆一、藤本禎男、岡崎裕、須佐宏
		学校組織と経営	添田久美子、坂本善光
		教育と福祉の連携	添田久美子、衣斐哲臣、谷尻治
	実習関連科目	課題分析	添田久美子、衣斐哲臣、岡崎裕、西浦民子、坂本善光、藤本禎男、武田鉄郎、舩越勝
	修了研究科目	修了研究	添田久美子、衣斐哲臣、岡崎裕、西浦民子、坂本善光、藤本禎男、武田鉄郎、舩越勝
授業実践力向上コース	コース専門科目	学校・学級経営Ⅰ	谷尻治、宮橋小百合、舩越勝
		学校・学級経営Ⅱ	谷尻治、宮橋小百合、舩越勝
		小規模校支援	豊田充崇、西浦民子
		学校安全と危機管理	添田久美子、西浦民子、中山眞弘
	テーマ実践研究科目	授業・教材研究Ⅰ	豊田充崇、宮橋小百合、谷尻治、中山眞弘、須佐宏、深澤英雄
		授業・教材研究Ⅱ	豊田充崇、宮橋小百合、谷尻治、中山眞弘、須佐宏、深澤英雄
		授業・教材研究Ⅲ	豊田充崇、宮橋小百合、谷尻治、中山眞弘、須佐宏、深澤英雄
		授業・教材研究Ⅳ	豊田充崇、宮橋小百合、谷尻治、中山眞弘、須佐宏、深澤英雄
	実習関連科目	課題分析	豊田充崇、宮橋小百合、谷尻治、中山眞弘、須佐宏、深澤英雄
	修了研究科目	修了研究	豊田充崇、宮橋小百合、谷尻治、中山眞弘、須佐宏、深澤英雄
実習科目	学校改善マネジメントコース	課題リサーチインターンシップ	添田久美子、衣斐哲臣、岡崎裕、西浦民子、坂本善光、藤本禎男
		学校実践実習Ａ	添田久美子、衣斐哲臣、岡崎裕、西浦民子、坂本善光、藤本禎男
		学校実践実習Ｂ	添田久美子、衣斐哲臣、岡崎裕、西浦民子、坂本善光、藤本禎男
		先進校実習	添田久美子、衣斐哲臣、岡崎裕、西浦民子、坂本善光、藤本禎男
	授業実践力向上コース	授業参加インターンシップ	豊田充崇、宮橋小百合、谷尻治、中山眞弘、須佐宏、深澤英雄
		授業実践実習Ａ	豊田充崇、宮橋小百合、谷尻治、中山眞弘、須佐宏、深澤英雄
		授業実践実習Ｂ	豊田充崇、宮橋小百合、谷尻治、中山眞弘、須佐宏、深澤英雄
		小規模校実習	豊田充崇、宮橋小百合、谷尻治、中山眞弘、須佐宏、深澤英雄

2017年 年間時間割（予定）

学校組織と経営

生徒指導と体制

学校安全と危機管理

全体ミーティングで成果を報告

能動的学習の実践的研究

教材研究における今日的課題

Q1（4月～5月）

Ⅰ	月	火		水		木		金	
		M	T	M	T	M	T	M	T
9:10～12:20	（実習校訪問日）	（全体集会）		ICT活用と指導技術		学校と法	学校・学級経営Ⅰ	学校組織と経営	課題分析
				豊田/須佐		添田/坂本	谷尻/宮橋/舩越	添田/坂本	豊田/宮橋/谷尻/中山/須佐/深澤
13:10～16:20		問題行動と保護者との連携		特別支援教育と体制			学校・学級経営Ⅰ	課題分析	
		衣斐/谷尻/武田		武田/江田/山﨑/古井			谷尻/宮橋/舩越	添田/衣斐/岡崎/西浦/坂本/藤本/武田/舩越	

Q２（6月～8月）

Ⅱ	月	火		水		木		金	
		M	T	M	T	M	T	M	T
9:10～12:20	（実習校訪問日）	（全体集会）		学校と教師		学校安全と危機管理	授業・教材研究Ⅰ	授業研究の理論と実践	課題分析
				添田/細田		添田/西浦/中山	豊田/宮橋/谷尻/中山/須佐/深澤	二宮/岡崎/藤本/須佐	豊田/宮橋/谷尻/中山/須佐/深澤
13:10～16:20		生徒指導と体制				基礎基本学習指導方法	授業・教材研究Ⅰ	課題分析	
		谷尻/衣斐/中山				深澤/林	豊田/宮橋/谷尻/中山/須佐/深澤	添田/衣斐/岡崎/西浦/坂本/藤本/武田/舩越	

Q3（9月～11月）

Ⅲ	月	火		水		木		金	
		M	T	M	T	M	T	M	T
9:10～12:20	（実習校訪問日）	（全体集会）		学校と福祉の連携		教育課程編成の理論と実践	授業・教材研究Ⅱ	和歌山における家庭・地域と連携した学校づくり	
				添田/衣斐/谷尻		二宮/藤本	豊田/宮橋/谷尻/中山/須佐/深澤	越野/西浦	
13:10～16:20		小規模校支援					授業・教材研究Ⅱ	課題分析	課題分析
		豊田/西浦					豊田/宮橋/谷尻/中山/須佐/深澤	添田/衣斐/岡崎/西浦/坂本/藤本/武田/舩越	豊田/宮橋/谷尻/中山/須佐/深澤

Q4（12月～2月）

Ⅳ	月	火		水		木		金	
		M	T	M	T	M	T	M	T
9:10～12:20	（実習校訪問日）	（全体集会）		学習過程と評価		教育課程マネジメントとカリキュラム開発	授業・教材研究Ⅲ	課題分析	課題分析
				谷口/藤本		藤本/岡崎	豊田/宮橋/谷尻/中山/須佐/深澤	添田/衣斐/岡崎/西浦/坂本/藤本/武田/舩越	豊田/宮橋/谷尻/中山/須佐/深澤
13:10～16:20		能動的学習の実践的研究	学校・学級経営Ⅱ	教材研究における今日的課題		教育課程における今日的課題	授業・教材研究Ⅲ		
		岡崎/中山	谷尻/宮橋/舩越	岡崎/須佐/藤本/木村		藤本/二宮/菅/木村/尾上	豊田/宮橋/谷尻/中山/須佐/深澤		

小規模校実習

課題分析で模擬授業実施

授業・教材研究Ⅰ

実習校での参観の様子

実習先での授業実施

授業・教材研究Ⅱ

5つの特色

1 14名の教員による充実の指導体制

専門分野の理論と実践の融合を図ってきた大学教員だけでなく、教育実践が全国レベルで評価されてきた先生、和歌山県下で現職教員の指導で活躍している先生、和歌山県下で先進的な学校経営を行ってきた校長経験者などの実務家教員を加えた充実の指導体制を備えています。

2 和歌山県特有の課題に応じたカリキュラム

「和歌山県における家庭・地域と連携した学校づくり」、「基礎基本学習指導方法」、「小規模校支援」など和歌山県の課題に応じたカリキュラム構成で、地域の課題について理解を深め、解決に取り組むための視座を学習します。

＊「基礎基本学習指導方法」担当者：深澤・林

国際的な学力調査や全国学力・学習状況調査、体力・運動能力調査などをもとに実態を学ぶとともに、基礎・基本の充実のための指導計画や学習過程を構成し、子どもの基礎学力（体力）の習得状況を分析するための視点獲得を目指す授業です。実際に授業の中で、子どもの実態に応じた有効な教材開発やPDCAサイクルの実施計画を立てます。

＊「小規模校支援」担当者：豊田・西浦

小規模校の定義やその分布、抱える教育課題の理解、複式学級等の指導方法を修得することを目的とし、附属小学校における複式学級指導法の研究等について取り上げます。その後、主として和歌山県内の具体的な学校を取り上げ、その特色ある授業実践やカリキュラム等を通して、学校研究を行います。また、学校教育現場への調査活動も実施します。最終的には、学校マネジメントの視点から、諸課題への取り組みとして地域を題材とした授業実践についての提案ができるようにします。

3 現場と連携し、理論と実践を融合する実践的カリキュラム

1年目は毎週1回インターンシップに取り組み、現場の指導者と大学院教員とのカンファレンスを行うことで、大学院で学んだ理論と現場の課題を融合させ、より実践的な学習と省察に取り組みます。

＊「授業・教材研究」科目群とインターンシップの連携

児童・生徒の成長・発達と創造的な学力を保障する授業実践におけるすぐれた指導技術を遂行するために、授業設計の方法、授業展開の方法、授業分析の方法、授業評価の方法、授業改善の方法を理解し、高度な授業実践の計画的・組織的な実践力を培うための授業です。実際に、インターンシップ先の学校において担当した授業を振り返りながら考察する等、実習科目と連動して実施していきます。

4 福祉分野との統合による子どもの全体的な支援を考えるコンテンツ

特別支援教育だけにとどまらず、福祉分野の専門家による「教育と福祉の連携」、「問題行動と保護者との連携」などの科目によって、子どもの育ちや環境を全体的な視点で考え、学校と福祉が連携した支援体制のあり方を考えるコンテンツを用意しています。

＊「教育と福祉の連携」担当者：添田・衣斐・谷尻

事例報告などにより貧困や虐待など、子どもの置かれている環境について理解を深めるための授業です。地域の福祉機関、団体、NPOなどの活動を行っている人から制度や役割の説明を受け、連携の事例や可能性を検討したり、現任校の事例などを挙げて支援のためのネットワークの在り方を討論します。

福祉施設でのフィールドワークも実施

5 21世紀の学習環境を実現するアプローチ

すべての授業が研究者と実務家教員等によるティーム・ティーチングで行われ、アクティブ・ラーニングやICTの積極的活用などを実際に経験しながら、21世紀の学習にふさわしい環境づくりについて考えを深めるとともに、それらを準備する実践的態度を養います。

担当教員

衣斐 哲臣 教授

IBI TETSUOMI

これまで臨床心理士および児童相談所職員として、精神科医療および児童福祉の現場で、対人援助や子ども家庭支援に携わってきました。とくに、児童相談所では、児童虐待、不登校、非行、発達障害などの問題をもった多くの子どもとその家族に出会い、問題の見立てや支援の方法をいろいろ工夫してきました。その経験をもとに、教育と福祉の協働や教師の問題解決能力向上に取り組んでいきたいと思っています。

▶担当科目：「教育と福祉の連携」「問題行動と保護者との連携」等

岡崎 裕 教授

OKAZAKI YUTAKA

教育をめぐる状況がめまぐるしく変化するなかで、私たち教員は、最前線に立つ者としてどうあるべきか、また何をなすべきかを考え、日々実践する必要に迫られています。和歌山大学教職大学院では、多様な教育の現場を経験してきたスタッフが一丸となって皆さんをサポートいたします。皆さんとともに、明日の和歌山のそして日本の教育をつくり上げて参りましょう。

▶担当科目：「能動的学習の実践的研究」「教材研究における今日的課題」等

添田 久美子 教授

SOEDA KUMIKO

平成20年度の教職大学院開設に関わって以来、教職大学院での授業や実習に携わりながら、教師の学びがどうあるべきか追求してきました。今後は皆さんと一緒に、教師のよりよい学びの場を創造したいと思っています。

▶担当科目：「学校と法」「学校組織と経営」「教育と福祉の連携」等

武田 鉄郎 教授

TAKEDA TETSURO

発達障害の二次障害の予防に関する実証的研究、難病の子どもとその家族の支援や、心身症、情緒および行動の障害を伴う子どもに関する心理学的研究を行っています。特別支援教育推進のための教育・医療・福祉・労働等との連携の架け橋になることを目指しています。

▶担当科目：「特別支援教育と体制」「問題行動と保護者との連携」等

谷尻 治 教授

TANIJIRI OSAMU

重い課題を持つ子どもとの関係をいかにつくれるかが教育実践の鍵であること、探究学習や自治活動・文化活動・部活動などが、個人や集団の成長と密接に関わることを学校現場で学びました。「生涯にわたって学び続ける教師」を自らも目指しています。

▶担当科目：「生徒指導と体制」「学校・学級経営Ⅰ・Ⅱ」等

豊田 充崇 教授

TOYODA MICHITAKA

和歌山で生まれ育ち、和歌山大学学生・県内教員を経て和歌山大学へ。これからも、地域に根ざし地域の教育に貢献するとともに、県内から全国に発信できる授業実践や学校研究を皆さんと一緒につくっていきたいとおもっています。和歌山の教育の未来を切り拓いていきましょう！

▶担当科目：「ICT活用と指導技術」「小規模校支援」等

舩越 勝 教授

FUNAGOSHI MASARU

様々な生きづらさを抱えた子どもたちの増加など、いま、子どもたちがつかみにくくなっています。だからこそ、深い子ども理解を基底においた臨床的・実践的教育研究が求められます。子どもが主体として学び、成長する授業研究、学級づくり、学校経営をともに進めていきましょう。キーワードは、「理論と実践の往還」です!!

▶担当科目：「学校・学級経営Ⅰ・Ⅱ」等

宮橋 小百合 准教授

MIYAHASHI SAYURI

フレネ教育をはじめとして、子どもや生徒・学生の学び合いについて研究しています。和歌山大学教職大学院でも、私自身が院生さんたちと学び合いながら、和歌山県の教育に貢献できるよう、共に追究していきたいと思っています。

▶担当科目：「学校・学級経営Ⅰ・Ⅱ」「授業・教材研究Ⅰ～Ⅳ」等

深澤 英雄 特任教授

FUKAZAWA HIDEO

学ぶことは楽しいことです。知ることで社会が見えてきます。すべての子どもが確かな学力を身につけ、心豊かに自分の人生を切り拓いていける子どもに育てることが教育の重要な側面です。そのためには教師が専門性と人間性を磨き続けないといけないと思います。教職大学院で専門家としての学びを豊かにし、日本の教育の未来を担っていきましょう。

▶担当科目：「基礎基本学習指導方法」「授業・教材研究Ⅰ～Ⅳ」等

中山 眞弘 准教授

NAKAYAMA MASAHIRO

これまで、教育委員会で現場を支える立場として勤めてきました。様々な教育の現場を見てきましたが、やはり教師は、子どもたちに「知・徳・体」をバランスよく育んでいくことが大切だと思います。この教職大学院で、多くの知識や経験を積み、和歌山の教育を一層充実させましょう。

▶担当科目：「生徒指導と体制」「能動的学習の実践的研究」等

須佐 宏 准教授

SUSA HIROSHI

紀南地方や附属学校の小学校現場で国語科の授業づくりや協同的な学びについて実践研究をしてきました。また、和歌山市教育委員会では、指導主事として、どの子も主体的に学べる授業づくりのためのアドバイスをしてきました。それらの経験を活かし、教職大学院で学ぶ先生方をサポートしつつ、私も先生方と共に学ばせていただきたいと思っています。

▶担当科目：「ICT活用と指導技術」「授業・教材研究Ⅰ～Ⅳ」「教材研究における今日的課題」等

藤本 禎男 特任教授

FUJIMOTO SADAO

これまで18年間数学の教師と野球部の監督、9年間和歌山県教育委員会、6年間小学校の校長（この時は算数の授業もさせてもらいました）、そして5年間中学校の校長として、38年間勤務してきました。この経験を生かして教職大学院に来ていただいた先生方とともに、子どもたちのために「分かる授業」をいかに構築していくかを考えていきたいと思っています。

▶担当科目：「学習過程と評価」「教育課程編成の理論と実践」「教育課程マネジメントとカリキュラム開発」等

坂本 善光 特任教授

SAKAMOTO YOSHIMITSU

東牟婁地方で教諭、指導主事、校長（H27度末退職）として勤務してきました。その間、いろいろな方と出会い、多くの授業や教育活動に関わることができました。その経験から得たことを、この教職大学院で学ぶ現職の先生方に伝え活かすことが私の役目だと考えています。多様な課題がある中、魅力ある学校の創造について現職の先生方と共に考えていければと思います。

▶担当科目：「学校と法」「学校組織と経営」「道徳教育」等

西浦 民子 特任教授

NISHIURA TAMIKO

紀美野町（旧美里町）のへき地指定学校や複式学級を有する学校で27年間勤めた後、和歌山市の小学校で、教頭職を5年、校長職を5年経験させていただきました。2015年度の1年間は、初任者研修高度化事業のフォローアップに関わり、採用2～3年目の教師の研修指導を行っておりました。それぞれの立場での実践を見直しつつ、多くの先生方とともに学びつづけることができますことを幸せに感じております。

▶担当科目：「小規模校支援」「学校安全と危機管理」等

Q&A

Q1 教職大学院はこれまでの大学院修士課程と異なるのでしょうか？

A1 教職大学院では、2コースの院生全員が学校での実習を履修します。また、修了認定は修士論文提出ではなく、実習に基づいた報告書を提出します。修了後取得する学位は、専門職学位となります。

Q2 修了後、どのような免許が取得できますか？

A2 小学校、中学校、高等学校のいずれかの一種免許状をお持ちであれば、それらの免許状が専修免許状になります。ただし、新たな免許状を取得するコースは開設していません。

Q3 現職教員はどこに実習に行くのですか？

A3 現職教員の院生は、勤務している学校に実習に行きます。1年目は週1回勤務校で実習として課題を探究し、2年目は勤務校で仕事をしながら設定した課題に取り組みます。大学院の教員が各勤務校に赴いて指導を行うことになります。

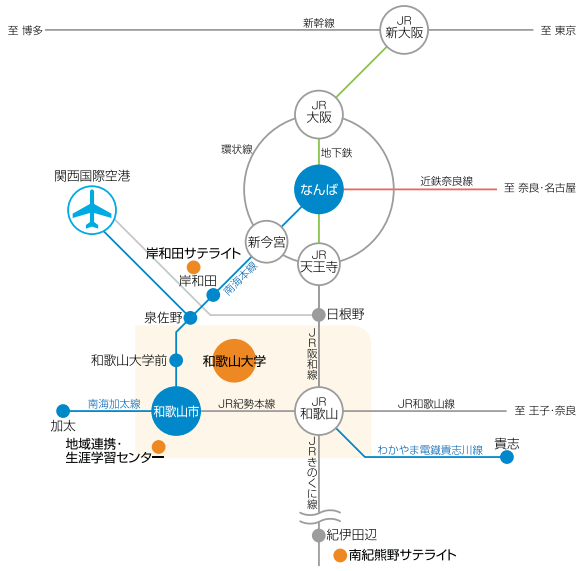
Q4 大学院生への授業料の優遇措置はありますか？

A4 現職教員の方には、都道府県からの派遣等であれば授業料等の優遇措置があります。また、和歌山大学による授業料減免措置や奨学金の制度も利用できます。

Q5 教員採用試験に合格していても大学院に入学できますか？大学院進学中も受験できますか？

A5 多くの自治体に、採用を猶予してくれる制度があります。例えば和歌山県では「大学院進学に係る採用時の特例」として採用が猶予されます。ただし、各自治体によってその条件は異なる場合があります。

●電車でのアクセスマップ



●アクセスマップ

南海「和歌山大学前」駅から和歌山バスで約4分
南海「和歌山市」駅から和歌山バス(6番・7番乗場)で約20分
JR「和歌山」駅から和歌山バス(4番乗場)で約30分

お問い合わせ

教育学研究科教職開発専攻（教職大学院）事務室
Tel: 073-457-7537
E-mail: pde-edu@center.wakayama-u.ac.jp

和歌山大学マスコットキャラクター「わだにゃん」